



2016年5月

株式会社三井住友銀行 CA本部 企業調査部

香港駐在 神谷 直良

■ 拡大が見込まれる有機ELパネル市場と関連産業への影響

有機 EL パネルは今後、スマートフォン(以下スマホ)への搭載が増えることで市場拡大が加速する見込みです。この中で、当該パネルの開発・設備投資を強化するパネルメーカーに加え、パネル部材等関連産業でも競争環境が大きく変動する可能性があり、関心が集まっています。

有機 EL パネルの概要

有機 EL パネルは、薄型テレビやスマホ等に搭載される薄型ディスプレイパネルの一種です。構造としては、電圧をかけると発光する有機物を利用して、ガラスやプラスチックの基板の上に電極や有機発光材料等が積まれて画素(パネル1枚当たり数百万個)が形成されます。市場の主流である液晶パネルが背面に照明機器を搭載するのに比べて、有機 EL は全体の厚みが数百ナノメートルの電極・有機材料自体が発光するため、部材が少なく済み薄型化や生産コスト低減が期待出来ます。また、プラスチックを基板として使用出来るためパネルを折曲げられる等、搭載機器のデザインの幅を広げることが可能です。こうした特長を持つ半面、量産難度が高く歩留りを確保するのは容易でなく、現状では液晶パネル対比で生産コスト・販売金額は割高になっています。

有機 EL パネルの需要動向

有機 EL パネルの需要をみれば、大型パネルの分野では、韓国パネルメーカーが主に有機 EL テレビの開発・生産を進め

てきましたが、同テレビは販売価格は同じサイズの液晶テレビと比べて3~4倍と高額である一方、有機 EL ならではの特長に乏しいため、2015年ではテレビ市場金額全体の1%に止まっています。長期的には、紙のように薄く壁掛けや折曲げが可能なテレビ等、新たな需要の創出が期待出来るものの、現時点ではこうした製品は研究開発の途上にあります。

一方、スマホ等向けの中小型パネルでは、韓国パネルメーカーが自社グループのスマホ旗艦モデルに搭載すべく有機 EL パネルの開発・生産能力拡大を進め、同社スマホ販売台数の増加に牽引されて有機 EL パネル市場は拡大してきました。

加えて足元では、韓国パネルメーカーがほぼ唯一の販売先としていた自社グループのスマホの販売台数が2014年上期に減少傾向に転じたことから、工場稼働率を維持すべく有機 EL パネルの自社グループ外のスマホメーカーへの拡販に向けて低価格攻勢を始めました。この結果、2015年には中国スマホメーカーの600米ドル前後の高価格機種での採用も始まり、有機 EL パネルは中小型全体の市場金額の2割強を占めるに至っています。

今後を見通せば、中国スマホメーカーによる有機 EL の採用が増えるとみられる上、米国大手スマホメーカーが端末のデザイン面等での差別化を図るべく、従来採用してきた液晶パネルから2018年頃には屈曲可能なフレキシブル有機 EL パネルへの切替えに向けて動いているとの声も聞かれ、有機 EL パネルが今後更に普及拡大する可能性が高まっています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的な手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。



日・韓パネルメーカー各社の動き

日・韓の大手パネルメーカーはこれまで中小型において技術力・生産規模で他地域のメーカーに先行してきましたが、目先2年程度で中国にて地場パネルメーカーによる高精細な中小型液晶パネルの先端工場(第6世代LTPS方式液晶パネル)が相次いで立ち上がる計画で、地場メーカーによる高精細液晶パネルの歩留まりが向上しつつある中、長期的には中国勢が生産能力・技術面で台頭してくる可能性が出てきています。

こうした状況下、日・韓パネルメーカーは中小型パネルでの地位確保に向け、有機ELへの取り組みを強化しています。

韓国パネルメーカーでは、これまでほぼ独占的に中小型有機ELパネルを量産・販売してきたメーカーに加えて、他

社でも2017年下期以降これまでテレビ用の大型有機ELパネルで培ったノウハウを活用し、中小型有機ELパネルの量産に向けて生産ラインを大幅に拡充する動きも出てきており、今後開発・量産を主導していくとみられています。

また日系パネルメーカーは、中小型液晶パネルで培ったLTPS方式パネルの量産ノウハウや低消費電力技術を活用することで、中小型有機ELパネルでも大きく後れをとらないよう開発・設備投資の増強を検討する動きも出てきています。

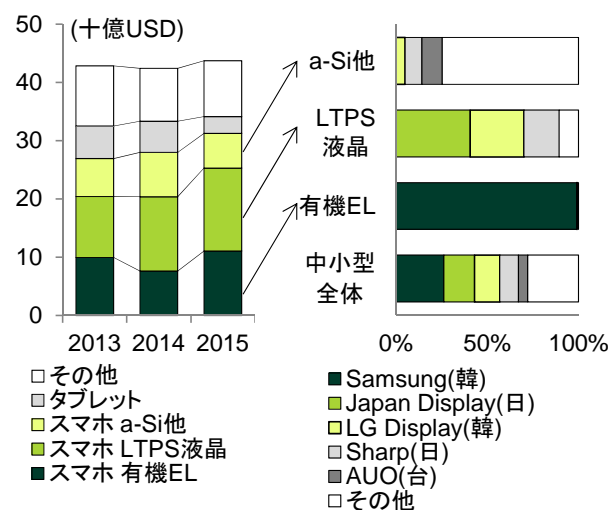
これらメーカーの投資計画を踏まえると、有機ELパネルの供給量は現在の高精細パネル(有機EL・LTPS液晶)の需要を大幅に超過する規模になるとみられ、中期的には競合激化が見込まれます。

パネル関連産業への影響

こうした中で、パネル向け部材やタッチパネル・製造装置等の関連業界では、有機ELパネルの市場拡大が業績に大きく影響する企業も少なくありません。例えば、液晶パネルから有機ELへのシフトに伴い搭載数量が大幅に減少する部材がある一方で、液晶パネルの高機能化に伴い不要となっていた周辺部品が有機ELパネルでは再び必要となり生産数量が回復する可能性もあります。

このように、パネルメーカーおよび部材等関連メーカー等の競争環境が大きく変動する可能性があるだけに、スマホメーカー等のパネル採用動向やパネルメーカーの投資動向が注目されます。(神谷)

図表 世界中小型パネル市場規模・2015年メーカー別売上シェア(搭載機器・方式別)



(注) メーカー別シェアでは中小型売上高上位5社を抽出。

(出所) IHS Technology “Small Medium Display Market Tracker Forecast, Q4 Data Tables”を基に弊社作成。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。